

## シラバス参照

科目名	薬学総合演習B
配当年次	3年次
開講期間	後期
単位数	1
担当教員	一色 恭徳(イツシキ ヤスノリ) 野村 陽恵(ノムラ ハルエ) 松崎 広和(マツザキ ヒロカズ) 三木 涼太郎(ミキ リョウタロウ) 茂木 肇(モテキ ハジメ)
期間・曜日・時限・教室	後期 金曜日 1時限 21-101

※	
授業の目的・目標	<p>本教科は、薬剤師として求められる知識、技能と態度を修得するための基盤となる物理・化学・生物・薬理・病態・薬物治療の知識の修得に加えて医療人としての態度を涵養することを主たる目的とします。その目的を達成する為に、</p> <p>1) e-ラーニング教材を利用して幅広い知識の定着を図ります。</p> <p>2) 能動的学習の実践を通じて、多様な情報を解析、整理、統合して正確に表現できる学習スキルの涵養を目指します。(知識・理解)(汎用的技能)</p> <p>3) 多職種連携教育(IPE)演習を通して、学習によって得られた基礎的な知識と薬剤師となるための医療人マインドとのリンクを図り、薬剤師としての基礎的志向を構築し医療人としての成長を図ります。(知識・理解)(汎用的技能)(態度・志向性)</p>
準備学習等の指示	指定テキスト、e-ラーニング教材について、関連する科目の教科書を併用しながら予め学習をすすめてください。
講義スケジュール	<p>1 よく理解するための学習方法を学び、実践する。</p> <p>2-12 e-ラーニングとチームベースドラーニング(TBL)による化学・物理・生物・薬理・病態・薬物治療の統合学習</p> <p>13-14 IPE演習</p> <p>物質の物理的性質を理解するために、原子・分子の構造、熱力学、反応速度論などに関する基本的事項を身につける。</p> <p>化学物質(医薬品を含む)を適切に分析できるようになるために、物質の定性、定量に関する基本的事項を修得する。</p> <p>化学物質を理解できるようになるために、代表的な有機化合物の構造、性質、反応、分離法、構造決定法、および無機化合物の構造と性質に関する基本的事項を修得する。</p> <p>医薬品の生体内での作用を化学的に理解できるようになるために、医薬品標的および医薬品の構造と性質、生体反応の化学に関する基本的事項を修得する。</p> <p>自然界に存在する物質を医薬品として利用できるようになるために、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用および天然生物活性物質の単離、構造、物性、作用などに関する基本的事項を修得する。</p> <p>生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになるために、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項を修得する。</p> <p>人体の成り立ちを個体、器官、細胞の各レベルで理解できるようになるために、人体の構造、機能、調節に関する基本的事項を修得する。</p> <p>生体の恒常性が崩れたときに生ずる変化を理解できるようになるために、免疫反応による生体防御機構とその破綻、および代表的な病原微生物に関する基本的事項を修得する。</p> <p>疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を理解する。</p> <p>患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。</p> <p>15 薬剤師になるための医療人としての成長について、その到達状況の振り返り</p>
教科書	薬剤師国家試験対策必須問題集(評言社) (購入については後日掲示にてお知らせします。)
参考文献	関連する科目で使用する教科書等
授業の方法	ガイダンス(1/15)、e-ラーニング演習(6/15)、TBLによる能動的学習(6/15)、ディスカッション(2/15)、学習の自己分析(1/15)
成績評価方法	e-ラーニング演習の成果を評価する最終PC演習試験(70%)と定期試験結果(30%)を合わせて100%で評価します。ただし、医療人としての成長について、ルーブリックを用いてその到達状況を自己評価(形成評価)すること必須とします。
オフィスアワー	授業実施曜日の放課後
居室	21号館6階620

ホームページ	
その他特記事項	実力がつくまで、自主学習も含めて、繰り返し学習することが大切です。 TBLやIPE演習では、他者とコミュニケーションを取りながら、学習を進めることが重要です。
添付ファイル	

## シラバス参照

科目名	薬学総合演習B
配当年次	3年次
開講期間	後期
単位数	1
担当教員	一色 恭徳(イツシキ ヤスノリ) 野村 陽恵(ノムラ ハルエ) 松崎 広和(マツザキ ヒロカズ) 三木 涼太郎(ミキ リョウタロウ) 茂木 肇(モテキ ハジメ)
期間・曜日・時限・教室	後期 金曜日 3時限 21-101

※	
授業の目的・目標	<p>本教科は、薬剤師として求められる知識、技能と態度を修得するための基盤となる物理・化学・生物・薬理・病態・薬物治療の知識の修得に加えて医療人としての態度を涵養することを主たる目的とします。その目的を達成する為に、</p> <p>1) e-ラーニング教材を利用して幅広い知識の定着を図ります。</p> <p>2) 能動的学習の実践を通じて、多様な情報を解析、整理、統合して正確に表現できる学習スキルの涵養を目指します。(知識・理解)(汎用的技能)</p> <p>3) 多職種連携教育(IPE)演習を通して、学習によって得られた基礎的な知識と薬剤師となるための医療人マインドとのリンクを図り、薬剤師としての基礎的志向を構築し医療人としての成長を図ります。(知識・理解)(汎用的技能)(態度・志向性)</p>
準備学習等の指示	指定テキスト、e-ラーニング教材について、関連する科目の教科書を併用しながら予め学習をすすめてください。
講義スケジュール	<p>1 よく理解するための学習方法を学び、実践する。</p> <p>2-12 e-ラーニングとチームベースドラーニング(TBL)による化学・物理・生物・薬理・病態・薬物治療の統合学習</p> <p>13-14 IPE演習</p> <p>物質の物理的性質を理解するために、原子・分子の構造、熱力学、反応速度論などに関する基本的事項を身につける。</p> <p>化学物質(医薬品を含む)を適切に分析できるようになるために、物質の定性、定量に関する基本的事項を修得する。</p> <p>化学物質を理解できるようになるために、代表的な有機化合物の構造、性質、反応、分離法、構造決定法、および無機化合物の構造と性質に関する基本的事項を修得する。</p> <p>医薬品の生体内での作用を化学的に理解できるようになるために、医薬品標的および医薬品の構造と性質、生体反応の化学に関する基本的事項を修得する。</p> <p>自然界に存在する物質を医薬品として利用できるようになるために、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用および天然生物活性物質の単離、構造、物性、作用などに関する基本的事項を修得する。</p> <p>生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになるために、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項を修得する。</p> <p>人体の成り立ちを個体、器官、細胞の各レベルで理解できるようになるために、人体の構造、機能、調節に関する基本的事項を修得する。</p> <p>生体の恒常性が崩れたときに生ずる変化を理解できるようになるために、免疫反応による生体防御機構とその破綻、および代表的な病原微生物に関する基本的事項を修得する。</p> <p>疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を理解する。</p> <p>患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。</p> <p>15 薬剤師になるための医療人としての成長について、その到達状況の振り返り</p>
教科書	薬剤師国家試験対策必須問題集(評言社) (購入については後日掲示にてお知らせします。)
参考文献	関連する科目で使用する教科書等
授業の方法	ガイダンス(1/15)、e-ラーニング演習(6/15)、TBLによる能動的学習(6/15)、ディスカッション(2/15)、学習の自己分析(1/15)
成績評価方法	e-ラーニング演習の成果を評価する最終PC演習試験(70%)と定期試験結果(30%)を合わせて100%で評価します。ただし、医療人としての成長について、ルーブリックを用いてその到達状況を自己評価(形成評価)すること必須とします。
オフィスアワー	授業実施曜日の放課後
居室	21号館6階620

ホームページ	
その他特記事項	実力がつくまで、自主学習も含めて、繰り返し学習することが大切です。 TBLやIPE演習では、他者とコミュニケーションを取りながら、学習を進めることが重要です。
添付ファイル	